

富山経済同友会

会報

2020.9月
No. 297



7月会員定例会（7月8日）

CONTENTS

- 7月会員定例会 2
- 【講演録】7月会員定例会 3
- 企画総務委員会（第1回，第2回，第3回）...11
- 第1回企業経営委員会拡大委員会13
- 【講演録】日本銀行金沢支店長 武田 吉孝 氏...13
- 文化スポーツ委員会（第9回，第10回）.....17
- 働き方改革委員会（第3回，第4回）.....18
- 第4回地域創生委員会19
- 第5回人財創出委員会19
- 第7回教育問題委員会20
- 課外授業講師派遣20
- 同友会の日 富山 GRN サンダーバーズ戦...21
- リレーエッセイ®（荒井 進 氏）.....22
- 活動報告23
- 会員の入退会25
- 新型コロナウイルスに関するアンケート結果...28
- 第21回富山景気定点観測アンケート結果 ...28
- 今後の予定29
- わが青春の1枚（山田 岩男 氏）30

地域の未来を創る「スマートシティ」と「データサイエンス」 ～ 7月会員定例会 ～

今年度初の会員定例会が7月8日(水)、ホテルグランテラス富山で開催され、当会会員に加えて会員所属企業の実務責任者・担当者、魚津市長の村椿晃氏、滑川市長の上田昌孝氏、県内市町村実務担当者ら約230名が出席した。定例会は地域創生委員会（山野昌道委員長）が主管し「スマートシティとデータサイエンス」をテーマに、地域創生委員会副委員長の吉田守一氏（㈱日本政策投資銀行富山事務所長）、富山市長の森雅志氏、当会幹事の東出悦子氏（㈱アイベック代表取締役）、富山大学長の齋藤滋氏の4氏を講師とした講演会を開催した。



山野委員長



まず吉田氏が、2020年2月に地域創生委員会にて実施した、福島県会津若松市、会津大学におけるスマートシティの取組に関する視察概要について報告した。吉田氏は、スマートシティを推進する拠点や情報プラットフォームの整備はもとより、協議会の設立や大学発ベンチャーの活用による産学官連携など、会津若松市における先進的な取組を紹介した。

次に、森市長が「富山市版スマートシティの取組み」と題して講演を行った。講演の中で森市長は「基礎自治体の仕事はface to faceでなければならないと考えているが今後、この維持にはどこかで効率化を進めなければならない、というのがスマートシティの取組の出発点」「富山市のスマートシティの取組はまだ道半ばだが、センサーネットワークの設置は行政としては全

国初。民間企業のアイデアを実現する手段としてぜひ活用してほしい」と、これからのまちづくりときめ細かな行政サービスの効率的な維持・提供に対する想いを語った。

次に、東出氏より富山市スマートシティ推進基盤を活用した実証実験の事例として「駐輪場の混雑お知らせシステム」の構築に関する取組が紹介された。東出氏は発表の中で、取組のきっかけは社員の通勤時におけるエピソードであったこと、富山市センサーネットワークの活用自体だけでなく、一定の精度確保や長期的なモニタリング、データ収集が可能など多くの知見が得られたこと、他の分野への応用など今後の幅広い展開の可能性について報告した。

最後に、齋藤学長が「地域課題解決を通じた、データサイエンティストの育成—富山大学データサイエンス寄附講座の設立—」と題して講演を行った。この中で齋藤学長は「今後、各産業におけるデータ取扱量が急激に増加することが見込まれる。このデータを使いこなす人材（データサイエンティスト）の育成が急務」「データサイエンス寄附講座の設立など、自治体や企業との連携を軸に、本学としても地域課題の解決などに取り組んでいきたい」など、富山大学として地域貢献に取り組んでいく決意を語った。



今定例会のテーマである「スマートシティとデータサイエンス」に対する参加者の関心は非常に高く、多数の質疑応答がされるとともに、講演後も講師と熱心な意見交換が実施されるなど会場は終始、活気と熱気ある雰囲気包まれていた。

(1) 地域創生委員会 県外先進事例視察結果報告 ～スマートシティ会津若松～

発表者：地域創生委員会副委員長 吉田 守一 氏

◆ 横展開可能な成功モデル創出へ

まず訪れましたのは、ICT オフィスの AiCT (アイクト) です。会津若松市でスマートシティの一つの到達点として整備されたもので、ビジネス棟と交流棟からなります。昨年4月にオープンし、入居は今年1月の時点で20社でしたが、足元では23社(7月現在)に増えております。

交流棟で会津若松市からスマートシティについてうかがった後、ビジネス棟を視察しました。地域商社の會津アクティバートアソシエーションでは、5G、IoTを活用した新しい日本酒造りの実証実験を、三菱商事では、本店直轄でデータの価値化に取り組み、地域課題を酌み取るため、全員が東京と会津のデュアルライフをされているとのことでした。

スマートシティ会津若松の特徴は、取組みが特定の分野に限らないこと、またデジタル情報のプラットフォームを先駆けて整備したことです。

レコメンド型の情報提供プラットフォームということで、将来的には行政のホームページを廃止して、「会津若松+ (プラス)」に一本化する意向とのことでした。そのユーザーに必要な情報をピックアップしてお勧め表示し、10分圏内で必要な情報を入手できることが特徴です。また、毎年300万人が訪れる観光都市ですので、閲覧者の国籍に応じて嗜好性を反映するインバウンド向けのホームページも整備してあります。

事業の推進主体の一つに、首都圏の大企業も含めた48団体で構成される会津若松市まち・ひと・しごと創生包括連携協議会があり、会津若松市に対して新規事業の提案を行っています。発注は市から直接する場合もあれば、会津地域スマートシティ推進協議会が請ける場合もあります。市民を動員してスマートシティを進める観点からは、こうした賛同者のネットワークを構築することは有効だと感じました。

今後、会津若松市をフィールドとして、さら

にビジネスを深化させ、他地域への横展開が可能な成功モデルの創出を目指すとのことでした。国もこうした取り組みを後押ししておりますので、会津若松市で磨か



吉田副委員長

れたサービスが一気に他地域でも展開し得る環境が直に到来する可能性があります。

◆ 会津大、卒業者8割が転出

次に訪れましたのは、会津大学にある ICT ラボの LICTiA (リクティア) です。この施設は、(東日本大震災からの)復興フェイズで建てられました。

会津大学は、コンピュータ理工学部のみで県立大学です。コンピュータサイエンス領域では日本最大で、就職率が100%、さらには大学発ベンチャーが33社あり、公立大学、学生数当たりでは各々全国1位です。外国人教員の比率が40%で、(学内での)公用語は日本語と英語。卒論は英語で記述するとのことでした。

ただ、卒業後は県外に8割が転出すること、設立して27年が経過しておりますので、大学発ベンチャー数は毎年1社強、それで公立大1位という点には課題が感じられます。

産学連携では、大学周辺にオフィスを構える大学発ベンチャーがぽつぽつと立地しています。学生にはよいアルバイト先となり、スキル習得にも役立つ。ベンチャー側は優秀な技術者の卵の確保につながり、ウィン・ウィンの絵が描けています。また、復興フェイズにおいて、会津大学は ICT 産業という切り口で、アクセントや NEC、富士通等と、特にエストニアのタリン工科大学とも連携しています。



また、会津オープンイノベーション「AOI（あおい）会議」を、約30のテーマで、近年は年に300回ほど行っています。ニーズを明確化した上で、ニーズがあれば会津大学で対応し、なければオープンに、外にソリューションを求めるオープンイノベーションを実践しています。

◆ まとめ ～人財も寄せる価値発信

会津若松市は、金融危機や震災を契機にハー

ド偏重を改め、市民目線のサービスを創出するスマートシティ、デジタル変革にかじを切りました。その中で市民参加型のオープンイノベーションを志向し、知の集積や雇用につながっています。

市民同意や魅力的な実証フィールド、会津大学等の提供価値をうまく発信し、首都圏から金や物だけでなく、イノベーション人材をたぐり寄せているのが大きな特徴です。その推進には住民同意がマストですので、産官学金労言一体の賛同者ネットワークを構築しています。

今後、マネタイズ化（ビジネス面での価値化）のフェーズに入ってきますが、都市間連携がそれを加速させるのではないかと感じました。また、ユーザー目線に立つことは、これまでの区域から離れて考えることですので、県・市町村連携の在り方にも影響するのではないかと感じました。

（２）富山市版スマートシティの取組み

講師：富山市長 森 雅志 氏

◆ face to face 維持へ効率化

富山市には、地区センターなどの市役所の出張所が79か所あります。基礎自治体の仕事は、やはり face to face でなければならない。今後もこれを大事にするには、どこかでサービスの効率化を図りこの体制を維持する必要があります。富山市のスマートシティに関する取組はここからスタートしております。

その一環として、地区センターなど市の施設にアンテナを設置し、居住人口の98.9%をカバーするセンサーネットワークを一昨年に完成させました。

このネットワークはLPWA（省電力広域エリア無線通信）によるLoRaWANというネットワークシステムです。動画は運べませんが、定点観測しているデータの収集については非常に安く運用できます。各種IoTで民間の方々に様々な取組をしていただくことと、このネットワーク経由でオープンソースに持ってくることでデータを開示していくことが基本的な

スタンスです。

また、担当部署以外は知らないようなライフラインにおける様々な情報を一つのプラットフォームに載せたいとの考えのもと、多くのステークホルダーに協議会に参加いただき、昨年11月、



森市長

まずは市道の工事情報をオープンにしました。知事に県道の工事情報の提供もお願いしており、今後、質を高めていきたいと思っています。センサーネットワークとライフライン共通プラットフォーム、この2つの柱で取組を進めていきたいと考えています。

◆ サイバー空間のスマート化

センサーネットワークの利用例ですが、まず社会実験として児童にGPSセンサーを持って

KOUENROKU

もらいました。14小学校を対象に始めたのですが、各所から依頼があり、最終的に65校でやろうと思っています。データを分析していくと、朝の集団登校と下校時に通っている道が違っていることなどが見えてきました。このような、移動経路のデータを収集し登下校路の実態を把握することで、例えば児童が利用している時間帯のコミュニティバスの増便や児童が滞留しやすい場所への見守り人の重点配置など施策実施の判断に活用することができます。

このネットワークは、市のアイデアだけでは十分な活用にまで持っていけませんので、民間の皆様からも出していただくということで実証実験の公募をしました。この後お話しいただく富山駅周辺駐輪場の混雑お知らせシステムをはじめ、用水路の水位観測、橋梁の桁端異常検知など23事業の応募があり全て採択いたしました。今年度も公募を行います。

この代表例として、駐輪場の利用状況把握(後述)や橋梁の桁端異常検知、消雪装置の遠隔監視などが挙げられます。このようなデータにより、例えば除雪対応などにおいて県道・市道を区別なく一緒に発注し、受注頂いた業者さんに面で仕事を請けていただくなど説得力のあるデータが取れるようになって考えています。

また、水道のスマートメーター化実験も行いました。検針を人力に頼ることなく行えますし、1時間ごとの使用水量の把握や漏水の発見にも役立つと思います。

そして、今年度、富山市では5つの実証実験を計画しております。1つは、スマート農業です。実験場として使うため、旧大沢野町の塩地区にあった約20ヘクタールの耕作放棄田を取得し、大区画圃場整備を行いました。この他にも河川水位監視や消雪装置稼働、橋梁モニタリングといったシステム、また競輪開催による道路渋滞への影響など、人力を伴わずに交通量を常時観測することなどにも取り組んでいます。

ライフライン共通プラットフォームですが、北陸電力やNTT、日本海ガス、富山地方鉄道などの企業、そして富山県と富山市により協議会を構成しています。これが一定程度進んだのを見た上で、国からも参加したいとの意向を聞

いております。さらに、例えば郵便配達の方からの情報や富山大学の入試といった情報なども含めることで、より質の高いシステムにしていきたいと考えています。

今年、社会実験として、NECとのタイアップによる顔認証システムの導入を計画しております。インバウンドがなくなっていますので店舗に成功を感じてもらえるかどうか不安ではありますが、例えば美術館、すし店など中心部で20か所、岩瀬地区で10か所に導入したいと考えています。

スマホで自分の顔を撮り、必要情報とともに顔認証のアプリに登録していただきます。それで、例えば導入店のおすし屋さんへ行くと、顔認証でそのお客さんのことが分かるとともに、クレジットカードに紐づけしてありますので、現金を一切払うことなく顔パスで決済が完了する、といった感じのものです。2月には実証実験をなさっていた南紀白浜にも行って、ホテルなどでシステムを体感してまいりました。

もう一つがチャットボットによる観光案内です。スマホで会話形式のやり取りを行い、様々な観光情報を出していくものです。32歳の若い女性が起業なさったシステムで昨年、渋谷まで会いに行つてこれを提案されたとき、富山市には対応するデータベースがないと言ったところ「要りません。ネット上にあるものを私たちのAIが集めてきます」と。そんなすごいことが今はできるのか。もう僕らの時代じゃないとつくづく思いました。

そして、これは県の仕事だと思って話をつないだのですが、あまり関心を示されなかったのが富山市だけでも行うことにしましたが、情報を富山市に限定しては意味がありません。例えばドラマの「大牧温泉殺人事件」の舞台へ行き



たいという人がいれば、そこまでの交通手段や乗降場所、料金などの情報提供につなげていきます。

少し角度を変えます。今年度、市道の白線を徹底的に引き直すため、平年の約3,000万円から約3億4,000万円に増額する思い切った予算付けをおこないました。道路の白線の認識を前提とする自動運転技術は、着実に普及しています。しかし、白線が薄ければ、せっかくの機能が働きませんので、年末までにしっかり行います。これをやると、県も動くと思います。県道もしなければ、意味がありません。

また、CiCの3階に、オープンイノベーション拠点として、とやまシティラボ（仮称）という空間を用意します。ハイスpek的な方向ばかりではなく、全く別方向のカテゴリーのものが出会うことによってイノベーションが生まれることは大事ですので、いろんな業種の関心の高い方々に多く集まっていただく空間をつくり、あれやこれや話すなかで、そこから新しい取り組みや技能などにつなげていってほしいと思っています。

いずれにしても、スマートシティ事業は、データの取得と集積を行い、それを分析し、市民にどう伝えて活用していくのかということが基本です。

格好よく言いますと、今までは車に頼らなくても暮らせる空間づくり、つまりフィジカル空間におけるコンパクト化を行いました。今度はサイバー空間のスマート化を進めて、face to face 行政の確保に向けて、IoTやAIに任せられるところは任せるとのことだと思っています。

◆ 歩くライフスタイル推進

本市で実施している「おでかけ定期券」の利用者と非利用者を比較すると要介護認定を受ける割合に大きな差が出ています。つまり、外出すること、つまり、歩いて人と出会うことが大事だということがわかってきました。平均寿命に対して健康寿命をどう延ばしていくのか、そのために、歩くライフスタイルを前面に打ち出していきたいと思っています。

去年から「とほ活」を展開しています。スマホでアプリをダウンロードすれば、どれだけ歩いたかがわかりますし、歩くことや公共交通の利用、イベントの参加によってポイントがたまり、年に2回、ペアで雅楽俱へご招待などの抽せんに参加できます。

今、呉羽丘陵に注目しておりまして、自転車共同利用のアヴィレのステーションを民俗民芸村、多目的広場、富山大学の正門の前にも作りました。30分以内に返せば無料です。ぜひ呉羽丘陵へ行ってほしいです。

呉羽丘陵は、八ヶ山から富山大学附属病院の敷地まで、質のいいフットパスができています。その途中、旧国道8号をまたいで歩行者専用の連絡橋も架けます。今年度から着工、令和4年度末に完成の予定です。橋からの立山の眺望は、電線が全く邪魔しませんので、まさに「立山あおく特等席」となります。

そして、今年度から、まちなかにベンチをたくさん設置し、トイレを徹底的に改修します。企業版ふるさと納税の事業の認定を受けましたので、これらの整備について、制度の活用にご協力を頂きたい、できれば県外企業の方々にこの制度を使っ

◆ おわりに

本市は、スマートシティを名のるほどの水準に至っておらず、まだ道半ばです。しかし、センサーネットワークを完成させたのは、恐らく全国の自治体で富山市だけです。あとは、ぜひ皆様方のアイデアで使っていただければと思っています。社会実験期間が過ぎれば有償でお貸しすることを考えていますが、データという、もっと価値あるものを取ってほしいと思っています。



(3) 富山市センサーネットワーク活用実証実験事例紹介

発表者：当会幹事 東出 悦子 氏

◆ 歩いて暮らせるまちへ

弊社の業務は、SDGsに掲げる17の目標のうち11番目「住み続けられるまちづくり」が主なターゲットになります。そこで、今回、同じ目標で富山市が取り組みます、公共交通の利用を促進した「歩いて暮らせるまちづくり」に挑戦したいと考えました。

ヒントとなったのは、自宅から自転車で富山駅まで行って電車通勤している社員が、駐輪場がいっぱいで、ほかを探して遅刻しそうな話でした。駐輪場の利便性を向上すれば自転車利用者が増え、公共交通の利用促進、そして健康増進にもつながります。

◆ 駐輪場の混雑お知らせシステム

システムの全体像は、まず駐輪場でセンサーを使って自転車通行数をカウントします。それを富山市のLoRaWANにつなげ、駐輪場管理者がリモートで台数管理をして、駐輪場利用者がスマホで遠方からでも混雑状況を確認するものです。

実験は、自転車通行数をカウントするセンサーの性能確認、そして開発センサーがLoRaWANにつながるかの検証です。今回、スマホのアプリ開発は含んでいません。

通行数のカウント方法には3案がありました。1つ目が、自転車のラックごとへのセンサー設置。2つ目が、駐輪場入り口への光電管を利用したセンサー設置。3つ目が、AIカメラ設置(映像識別)です。

各案のメリット・デメリットを総合的に検討した結果、2つ目の案を採用しました。仕組みはすごく単純で、2つのセンサーをゲートに設置します。駐輪場に入るとき、出るときに2つのセンサーは逆の順序にて感知することにより自転車の出入りを判別します。

センサー機器は、縦横12.5センチ、厚さ6センチ。アンテナとモニターがあり、左右に2つ

のセンサーとなる赤い光電管において、光を遮られることで物体を検知する仕組みとなります。

駐輪場では、駅構内までの近道として歩行する

だけの方もいますので、自転車か人かの判別も必要です。自転車の場合は、様々な場所で光を遮りますので反応が複数回、人の場合は、1点だけの遮りになりますので反応が1回ということで判別します。

富山駅南第2自転車駐車場で実験をしました。3日間のうち、2月27日木曜日(雪時々曇り)の結果です。朝7時半から夕方5時半まで実測とシステムで行いましたが、自転車の数は、一気に朝の7時半から9時までは下がり、16時から17時半までは増加しています。駐輪数は開始時が232台、終了時が250台と、朝より夜のほうが多くあります。

◆ 移動手段の選択肢増を

成果として、自転車通行数の検出率の目標達成やLoRaWANへの接続確認、長期的モニタリングとデータ収集が可能なこと。一方、課題として、複数人の同時通過や傘を持つ人と自転車の誤検知、センサーの盗難・いたずらリスクが挙がりました。

朝方に駐輪数が減少、夕方に増加するということは、富山駅まで電車やバスで来る学生や会社員が目的地まで自転車で移動するのに、駐輪場を仮置場として利用している可能性があるかと推測されます。そこで、移動手段の選択肢を増やす観点から、学生向けにシクロシティのステーションを高校の近くに設けることや、周辺各校を回るスクールバスの運行などを併せて実施



東出幹事



することも考えられます。これで、スペースに余裕を持たせることができ、新規の利用者数を増やせます。

また、センサーが LoRaWAN につながりましたので、例えば人や車のカウントに応用し、その流れを把握し、公共交通の利用促進、まちの活性化につながられます。

このデータを長期的に取り、様々なデータと組み合わせることで、シティラボで誰も考えなかった発想が生まれ、新たな施策展開が可能にもなります。一企業として、持続可能で付加価値をみんなで作って上げていくようなまちを育てていきたいと考えております。

(4) 地域課題解決を通じた、データサイエンティストの育成 ー富山大学データサイエンス寄附講座の設立ー

講 師：富山大学長 齋藤 滋 氏

私からは「地域課題解決を通じた、データサイエンティストの育成」ー富山大学データサイエンス寄附講座の設立ー」と題して、富山大学で今考えていることをお話させていただきたいと思います。

世界の企業時価総額は、サウジアラビアのアラムコが1位ですが、2位から6位までをGAFAMが占め、500兆円を超えます。また、7位、8位は中国のテンセント、アリババ。日本のトップ・トヨタは46位です。20年ほど前、日本の企業は上位を占めていたのですが、IT産業の進出であつという間に落とされました。ものづくりといっていましたけれども、ものをつくっているだけでは儲からなくなったのです。いかに情報をうまくキャッチして、先々を読んだ商品開発をしなければならないという実例だと思っています。

◆ 社会の動き

皆さんご存じのとおり、世界では最先端技術を活用して経済発展と社会課題の解決を両立する Society5.0の実現に向かっていきます。この世界ではIoTですべての人とモノがつながります。様々な情報が共有され、今までに無いような新たな価値が生まれるということで、ここから色

んなことが始まります。2025年まで、この5年が勝負になります。立ち後れた国は資産も減弱し、産業が停滞していくと思われます。また、



齋藤学長

AIを通して、必要な情報が必要なときに提供され、ロボットや自動運転などが現実的となってきました。さらには、少子高齢化、地方の過疎化などの社会課題がAIを通じて克服されると思います。

こうした社会の動きの中では新技術を社会実装するためのプラットフォームが重要になりますが、富山市では森市長が整備されました。残るのは、使いこなす人である「データサイエンティスト」です。残念ながら、日本は各国、特に中国に比べ、その育成に大幅な後れを取ってしまいました。

世界のデータ量予測では、今年の約55ZB（ゼタバイト：KBの10の12乗）から2025年には175ZBと、この5年間で急増することが見込まれています。非常に大きなデータが得られる

KOUENROKU

ようになってくる次の段階として、このデータをうまく使いこなす人材を如何にして使い、企業の発展に活かすか、勝負の年にきていると思っています。データサイエンティストの急激な需要はアメリカでも言われていまして、IBMやアマゾンなど大手では約20万人（のデータサイエンティスト）が働いていますが、2025年には約500万人が必要になるといわれています。

日本でその教育ができていないか、できていません。国の目標では、2025年までに、全ての高校生100万人、すべての大学生50万人に、AIの基礎的な素養、知識をもつようにしようと謳っています。

富山大学では、5年先んじて、今年から1年生に対してデータサイエンスを必須化しました。難しいプログラミングではなくて、使いこなすスキルを身につける。文系こそ必要なんだと、学内の反対意見を押し切りました。始めてみますと非常に好評です。更に文部科学省から、データサイエンス教育の協力校に今年度指定をいただき、富山大学は北陸の代表校としてデータサイエンス教育の中心的な役割を担うことになりました。

来年、富山大学はデータサイエンスの寄附講座を設置する予定です。2022年にはデータサイエンスを学ぶ大学院をつくります。地域経済への貢献に向け、経済学部にもデータサイエンスコースの学生を募集することといたしました。幅広い分野で取り組むのですが、1年生、2～4年生の各段階での教育と、大学院生はこの寄附講座で教育させていただきます。大学院では座学より実学で、実際にデータサイエンスを基にいろんなことを立案していただけるようなトップレベルの人材をつくりだしたいと考えています。

富山市のセンサーネットワークが整備され、居住人口の98%をカバーするデータが集まってきているわけですから、次はそのデータを如何に利活用して産業に結びつけることが重要だと思っています。それには、データサイエンティストの育成、そして行政や富山県、富山市内の企業、県内の大学との連携が必須になります。

コロナ禍の対応は、逆に地方にとってはチャ



ンスと言われています。3大都市圏居住者の地方移住意識調査によりますと、20代、30代ともに、関心が「高くなった」「やや高くなった」で、計約20%いらっしゃいます。本学でも急遽、遠隔授業を始めましたが、やり始めたら比較的簡単にできましたし、私も（リモートの活用により）コロナ後は東京に行かずに、富山にしながら会議に出席できました。何も東京にいる必要がない。東京に本社がある会社もやっぱり、そこにいる必要はなく地方で働ける、そういうシステムが出来上がったと思っています。さらには、東京一極集中が解消され、地方の潜在力アップなどが見直される時期だと思っています。

そこで、魅力ある都市、コンパクトシティへ都市圏からの人の移動が予想されますが、魅力のある企業・人・まちが必要です。経済界と大学、行政が三位一体になって頑張っていないと、ますます過疎化は進みます。また、先ほど会津の話が出ましたが、地場産業が弱ければ、人は残ってくれません。やはり地場産業を強くして、富山大学で教育されたい人材をぜひご採用いただくことにより、共存共栄を図りたいと考えています。

社会人の方に入學していただくためには、魅力ある大学にしないといけません。例えばデータサイエンス寄附講座もしくは大学院をつくり、企業から2年間派遣いただく。働きながら夜間、あるいは2時間程度の少しの時間の活用、遠隔授業なども行いますから、間違いなく素晴らしい人材にして企業にお返しすることができます。定員を増やすから来てください、というだけでは人は集まらないと思っています。それだけの見返りがあるものを大学はこれからつくっていく必要があるかと思っています。

◆ 富山大学の目指す在り方

従来、寄附講座というのは、単一の企業と大学のある先生との1対1の関係でしたが、今回提案したのはそうではありません。企業コンソーシアムに行政も入っていただきグループをつくりまして、そこへ様々な企業から相談に来ていただき情報の提供を受ける形となります。総合大学である富山大学にはたくさんの人材、学生がいます。これは大きなメリットです。学生、ここには社会人修士も含みますが、企業からの課題を教材として学習し、解決策を商品として提示したいと思っています。コンソーシアムの方は、商品を購入する形で運用資金を富山大学に入れていただく形になります。これがうまくいきますと、教員の数も増えますし、様々な形で相互の乗り入れも進み、富山県の発展につながるのではないかと考えています。

データサイエンス寄附講座の趣旨ですが、地域の行政、産業界からの課題を寄附講座の教員と学生がデータサイエンスを基に解析して、解決策を商品として提示し地域貢献に寄与する、これが大きな目標です。行政、産業界からの課題を教材として学習することによって、有能なデータサイエンティストを養成します。

(富山が) データサイエンスのメッカとして、富山の地方創生を促進させたいと考えています。

会津大学のように、優秀な人材を東京に持っていかれると困りますので、地元の企業に頑張ってもらっていただき、寄附講座でのつながりをうまく利用して優秀な人材を確保いただきたいと思います。

寄附講座の教育イメージですが、データサイエンスは、今、1年生全員が入門しております。都市デザイン学部は先行しており、2～4年生でも既に必修科目です。令和4年度から経済学部にもデータサイエンスコースを設け、2～4年生で専門的な講義を行います。

もうひとつは、令和4年から人社系・理工系の融合大学院をつくります。さらに、寄附講座が協力することにより、ここで優秀な人材を育成します。卒業後はマーケティング、製造現場だけでなくIT、金融、官公庁など様々な形で皆様のお役に立つのではないかと考えています。

富山市においてIoTプラットフォームをつくっていただきましたので、ここから先はアイデア、頭なんです。日本はずいぶん遅れてしまったのですが、今から富山は、日本をリードするような立場で学生と教官、企業の方、行政がタイアップする形で進めていただきたいと思います。

◆ データサイエンス寄附講座の設立

会社で保有する大量のデータは、活用方法が分からないのが実情ではないでしょうか。まず、富山大学のデータサイエンス寄附講座にご相談いただくことで、データに基づく経営の改善策や新商品の開発に結びつけていただきたいと思います。

例えば医療費の削減や街の活性化など、何かひとつの事業において単一のものではなくそれを結びつけるような形で利用できればと考えています。

当講座を通じて商品を共創することで、大学と地元の企業が強力に協力し合うことで産業を活性化して、富山経済を強靱化したいと思っています。

◆ まとめ ～実践教育で課題を解決

データサイエンス教育の課題はたくさんあります。例えば「すぐに結果を出せるのか」。多分すぐには理想の形にはなりません。少し時間はかかりますが、そこで諦めず徐々に進めていき、絶対に完成形につなげたいという強い意志を持っています。

「時代を先取りし過ぎでは」。そんなことはありません。あと5年で世界は変わります。今から手を打たないと、取り返しのつかないことになると思います。



KOUENROKU

社会が必要とする人材を育てるためには先行投資が必要です。だから、皆さん方と一緒に将来の人材を育成していきたいと思っております。

「教員、学生は協力してくれるのか」。私たちは9学部もある総合大学です。データサイエンスの担当教員、興味を持つ学生はたくさんいます。彼らには、そういう教材を与えてあげると活躍してくれますし、学生さんって、自分が面白いと思ったことはものすごく力を伸ばしてくれるんです。そういう人材をぜひ育てたいと思っています

「企業にとってのメリットはあるのか」。企業と大学が協力することで、ポストコロナでも業績を上げる課題解決策を共につくり上げることを目標としております。ですから、優秀な学生さんを企業に就職させるためにも、寄附講座のメリットはあると思っております。

富山大学にデータサイエンスの寄附講座を令和3年4月に設置する予定です。その役割としてデータサイエンティストを育成します。単なる座学ではなく実践的な教育、つまり企業や自治体からの課題をデータサイエンスにより解決したいと考えています。

そのためには、富山経済同友会の皆様方の協力が必要です。大学・企業・自治体が協力しながらデータサイエンティストの育成を富山県で行いたいと思っておりますので、ぜひよろしく願いいたします。

企画総務委員会

オンライン会議を積極的に取り入れよう！ — 第1回 —

5月12日(火)、第1回企画総務委員会（桶屋泰三委員長）がホテルグランテラス富山で開催され、委員ら11名が出席した。前委員長の牧田和樹副代表幹事にも出席いただいた。

冒頭、桶屋委員長が「本年度は本委員会に3名の常任幹事にご参加いただいている。交流担当は久郷慎治常任幹事、SDGs推進担当は高林幸裕常任幹事、



桶屋委員長

60周年記念事業担当は羽根由常任幹事に就任いただいた。強力な布陣で事業を進めていきたい。本日は第1回であり、今年度の活動方針・活動計画について皆様の活発な議論をお願いした

い」と挨拶した。

事務局が今年度の活動方針・活動計画の概要を説明。その後、高林常任幹事がSDGsの今年度の推進策について説明した。

続いて、企画総務委員会以外の各委員会の活動計画について事務局から説明をした後、意見交換を行った。

「新型コロナウイルス感染症の影響で予定が立てづらい面はあるが、会議やセミナーなどオンラインを取り入れ、早急に実施することが重要である」、「コロナ収束後の経済活動のあり方に関する講演会も開催してはどうか」、「オンラインでの委員会のあと、オンライン懇親会を開催したらどうか」など積極的な意見交換がなされた。

環境と調和した、企業の持続的发展を

— 第2回「SDGs勉強会」 —

第2回企画総務委員会が7月20日(月)、富山第一ホテルで開催され、委員12名が参加した。今回は、富山県総合政策局長 柿沢昌宏氏を講師に招き、SDGsについて理解を深めるための勉強会を行った。

冒頭、桶屋委員長が「SDGsを各委員会に展開していくことが必要であり、当委員会が先導役となって取り組んでいきたい」と挨拶した。

勉強会では、はじめに柿沢局長に富山県SDGs未来都市計画の取組みや産学への期待などについて講義いただいた。柿沢局長からは、各企業が経営戦略の中にSDGsを据えて持続的な成長を図っていくことが重要であり、それぞれの得意な分野を活かし、SDGsを企業経営にも結び付けて取組みを進めてほしい。さらに、その取組みを広く県内に展開し、県内経



講師 柿沢昌宏氏

済の活性化にもつなげていきたいとお話があった。

その後、当会が取り組むSDGs重要課題について意見交換が行われ、環境と調和した産業政策の重要性や経済界との連携、成功事例の横展開、SDGsの取組みとコロナの関係などについて、活発な議論がなされた。

最後に、高林担当役員が「SDGsの要諦は3つのI。インターコネクティッド（地球規模の横展開）、イノベーション（バックキャスト）、インクルーシブ（誰一人取り残さない）。これを踏まえて今後の委員会構成を検討し、さらに、企業のアライアンスや産学官の連携にも取り組んでいきたい」と総括し、会を締めくくった。



来期の委員会構成、60周年記念事業など検討

— 第3回 —

8月4日(火)、第3回企画総務委員会がオークスカナルパークホテル富山で開催され、委員ら11名が出席した。

今回は①SDGs推進を考慮した委員会の再編（次年度予定）、②来年4月からの60周年記念事業、③8月24日開催の新会員歓迎オリエンテーション・懇親会の進行確認、④会議を书面開催できるよう規約の変更を行うなど4項目について検討した。

冒頭、桶屋委員長が挨拶したのち、議事に入った。

SDGs推進を考慮した委員会の再編については、高林幸裕SDGs担当役員の案を基に、当会が活動すべきSDGs推進項目（連携促進、ガバナンス改革、技術革新、リスク対応、環境・

気候変動対策、働きがいのある会社作り、地域の持続的成長／価値創造、イノベーション発揮、健康経営など）をどのように各委員会に配分していくかについて議論を重ねた。

60周年記念事業については、羽根由60周年記念事業担当役員が①来年4月27日に総会と式典・懇親会を同時に開催すること、②7月以降に60周年記念講演を開催すること、③記念誌の内容などについて説明を行った。



日本銀行金沢支店長 武田吉孝氏が講演

— 第1回企業経営委員会 拡大委員会 —

第1回企業経営委員会拡大委員会（伊勢徹委員長）が7月29日（水）、富山電気ビルディングで開催され、委員会52名、講演会93名の会員が参加した。

初開催となる委員会では、まず伊勢委員長より挨拶があり「この委員会に入って良かった、楽しかったと言われるように頑張りたい」と今後の抱負を熱く語った。



伊勢委員長

引き続き、委員長より2020年度の活動方針や計画について説明があり、新しいテクノロジーやテレワーク等の働き方改革といった、持続可能な経営を目指すための諸課題を解決する手法の検討と事例の紹介、同友会経営道場の

運営、会員企業視察会「ごきげんよう職場訪問」の開催を中心とした活動計画について出席委員の皆と共有した。

講演会では、日本銀行金沢支店支店長の武田吉孝氏が「最近の金融経済情勢」と題して講演を行った。講演の様子は会員を対象とし、当会として初めて「Zoom」での同時配信を実施、35名の会員が視聴した。

武田氏からは前半はコロナ禍での景気動向について世界経済・日本経済について大変丁寧に分析や展望が示された。後半は、コロナ対策で在宅勤務の間に自ら集めた様々なアンケート調査結果から、多様な切り口で富山の姿を分析し、鋭い指摘やときにユーモアを交えたレクチャーに、参加した会員は終始聞き入り、知見を深めていた。

第1回企業経営委員会〈拡大委員会〉(R2. 7. 29) 講演録

「最近の金融経済情勢」

講師 日本銀行金沢支店 支店長 武田 吉孝 氏



（講師プロフィール）

1964年10月生 東京都出身

出身校 早稲田大学政治経済学部

1988年 4月	日本銀行入行
2001年 5月	人事局調査役
2010年 7月	文書局管財物品調達課長
2011年11月	札幌支店次長
2014年 6月	総務人事局人材開発課長
2015年 6月	名古屋支店次長
2017年 6月	青森支店長
2019年 7月	金沢支店長

◆ コロナ禍での景気動向

先日オンラインで行われた支店長会議では、全地域で景気の総括判断が下方修正されました。

中でも北陸は大幅に悪化しています。世界に通じるものづくりの力があるがゆえに、世界経済減速の影響を受けやすいという実態を表してい

ます。

2020年の世界経済見通しは、そこにお示したIMFがマイナス4.9%、OECDや世界銀行がマイナス5～6%と予測しています。来年は、IMFがプラス5.4%成長を見込むなど、いずれも急回復の予想をしていますが、今年5%下がって来年5%上がる——2年を均すとゼロ近傍ということで、過去40年間平均の3.5%を大きく下回る経済成長を余儀なくされるということになります。また、この見通しは、コロナによる追加的な影響が軽微で経済活動が順調に復旧することが前提ですので、今のような状況を踏まえると、見通しの達成は難しいところです。国別では、唯一中国だけがかりうじてプラス成長を維持する予想になっていますが、以前のような高い伸びには及びません。

そもそもコロナ禍の下で移動制限などの感染拡大防止策が講じられ、経済活動が抑制されたわけですから、当然、業況感は悪くなり、世界全体の貿易量も落ち込みます。ただ、足元にかけては、感染拡大防止策の緩和とともに少し戻っている様子が窺われます。

これを国別に見ますと、米国は、感染の抑え込みに成功している北部・東部を中心に、4月をボトムに経済活動は底入れし始めています。雇用情勢も、4月に大きく悪化した後、足元では少し改善傾向が窺われます。

中国は、もっと回復傾向がはっきりしており、固定資産投資や工業生産などの各指標をみると2月をボトムに足元では前年比プラスになっています。GDPは、1～3月にマイナス6.8%と大きく沈みましたが、4～6月はプラス2.4%まで回復しており、7～9月はさらにプラス幅が拡大するのではないかとといった観測も出始めています。ただ、小売売上高の動きを詳しくみると、プラスになっているのはインターネット小売が中心で、全体としてコロナ前の伸びには及びません。輸出も、繊維品やパソコン関係——具体的にはマスクやテレワークといったコロナ対応ニーズが牽引しており、衣類や自動車等は依然として前年割れが続いていることを考えると、このまま一本調子で回復するとみて良いかどうかは微妙なところではないかと思いま

す。

一方、日本は、世界経済の停滞が続く下で輸出が大きく落ち込んでおり、財別にみても自動車関連を筆頭に中間財、情報関連や資本財、全て下を向いています。地域別でも、中国こそ横ばい圏内ですが、アメリカやEU、NIEs、ASEAN向けはいずれも大幅に減少しています。

もっとも、先行きについては、回復を期待する声も聞かれ始めました。例えば、自動車については、足元で大きく落ち込んでいる世界販売が来年度にかけて回復すると予想されており、これにつれて生産・輸出が持ち直すのではないかとの見方が出始めています。実際、日本の自動車輸出専用船の数は、底入れしたように見えます。また、当地でウエイトが大きい半導体についても、今年後半からの持ち直しが見込まれています。データセンター向けが予想どおり好調に推移しているほか、4月見通しよりも下振れしているスマホ向けや車載・産業向けも、自動車の生産持ち直しや5G向け製品の生産が本格化すれば増加が見込めるでしょう。

生産については、全国、北陸ともに減少の一途を辿っています。北陸はここ数年、全国を上回る高い水準を維持してきましたが、足元にかけての落ち込みは全国を上回る急ピッチです。業種別では、富山でウエイトの高い化学が横ばい圏内で頑張っていますが、電子部品・デバイスや生産用機械は厳しい状況です。

設備投資は、北陸ではこの5年くらい、全国を上回る高い水準で推移してきましたが、さすがにここへきて水準が下がっています。今回の6月短観では、19年度、20年度ともに前回の3月調査よりも約1割下方修正され、2年間の累計で約2割減少しています。設備投資の先行指標である機械受注も減少が続いています。ただ、設備投資の水準は、2010年前後に比べると、まだかなり高い水準を維持しており、底堅いと評価してもいいと思っています。

設備投資が底堅さを維持している背景は3つ。1点目は、新しいことに取り組むための投資。製造業では、完成品だけでなく素材や部品を含めて、絶えず研究開発投資により新製品を作り

KOUENROKU

出していかなければ取り残されてしまうという危機感を強く持っています。コロナを機に生産ラインの見直しも必要になるでしょう。小売業や飲食・サービス業でも、ウィズコロナを前提とした改装や販売方法の見直しといった対策を練る動きも出始めています。

2点目は、維持更新投資。今次局面のように収益が厳しくなると不要不急なものを先送りする動きが拡がります。したがって、従来であれば維持更新投資を見合わせるという企業が増えることが多かったのですが、今回は、多くの企業で「維持更新投資を我慢すると後でひずみが来る——かえって修理費が嵩んだり、投資費用が集中したりするので、維持更新投資は予定通り行う」との声が聞かれています。

3点目は、省力化投資。コロナの影響で人が採りやすくなったという声も聞かれています。これは一時的なものであり、中長期的にみれば人口減少が進む中で人手不足は避けられません。

この間、住宅投資は北陸、全国とも、分譲や貸家、持家を問わず減少しています。

一方で、公共投資は非常に高水準です。とくに北陸の場合は、北陸新幹線敦賀延伸工事の本格化が背景にあります。こういって「富山は関係ない」と思われがちですが、富山だけをみても、国土強靱化へ向けた工事が出ており、公共投資については、今後も、景気を下支えする役割を果たしていくことが期待されます。

さて、公共投資は別にして、設備投資や住宅投資に景気を牽引する役割が期待できないとなりますと、頼みの綱は個人消費ということになります。コロナによる外出制限や活動自粛を背景に3月以降大幅な落ち込みを余儀なくされているのが実情です。中でも観光は、全宿泊者数はマイナス90%近くまで落ち込んでおり、インバウンド比率が高い北海道や京都、那覇ほどではないにしても、富山も打撃を被っていると言わざるを得ません。

ただ、人出の状況を見ますと、7月に入ってからかなり戻ってきたようです。自動車による移動や食料品店、薬局への出入りは概ねコロナ前の水準に回復していますし、小売や娯楽にもある程度人が戻っています。人出が戻れば、消

費意欲も戻ります。個人消費関連のマインド指標は、足元で急速にマイナス幅を縮小しています。

もっとも、私どもでは、個人消費の先行きについては、依然として慎重な見方を崩していません。確かに前年比90%減といったひどい状況からは抜け出しましたが、今後の動きを十分に見極める必要があります。20~30%減から、前年並みへ、さらにはプラスと続いていくのであれば、個人消費は回復に向かっていることとなりますが、現状の20~30%減といった状態のままで足踏みすると、十分な収益を確保することができない状況が続いてしまうことになります。

個人消費の先行きについて慎重に見ている背景には、雇用情勢があります。北陸の有効求人倍率は1.3と過去に比べて依然として高水準にあり、雇用タイトな感があるように見えますが、ここへきて急速に落ち込んでいます。この落ち込みは求人の減少によるものです。北陸の新規求人数は、小規模事業所を中心に大幅な前年割れが続いています。雇用調整助成金を申請して生産調整する状況では、今の雇用を維持することで精いっぱいであり、新規求人などともないというのが実情でしょう。一方で求職は増えていません。コロナ禍の下では、求職活動を積極化しづらいという事情もあるのではないかと考えられ、少し落ち着けば、求職者が増え、求人数の減少とあいまって有効求人倍率は一段と低下する可能性があるかとみています。

こうした中、雇用者所得も下振れ始めています。常用雇用者数は既にマイナスになっています。生産活動が下振れれば、時間外手当は減りますし、足元の状況を踏まえれば、賞与等も減少する可能性が高いと考えられますので、名目賃金も低下せざるを得ないでしょう。雇用者所得の減少は個人消費の下押しに繋がる可能性は否定できず、これが個人消費の先行きを慎重にみている背景です。

この間、企業の資金繰りは、官民の協力による極めて緩和的な資金調達環境の下で、今のところ安定的な状態を維持しているとみています。保証承諾は、件数・金額ともに高水準で推移していますし、コロナ対応として手許資金を厚め

に確保しておきたいとの企業ニーズを背景に、金融機関の貸出・預金も急伸しており、いずれも統計が遡及可能な過去20年間でピークの伸び率となっています。

◆ 「富山」を探る

～各種アンケート調査から

コロナ対策で在宅勤務の間、全国で実施されている様々なアンケートから北陸を俯瞰するという作業をしておりました。今日はその中から、富山県の姿を拾い上げてみたいと思います。

まず、「住みよさランキング」をみると、富山県は、魚津市（11位）や滑川市（15位）、富山市（40位）と3市がベスト50（全国812市区）に入っており、石川県ほど目立たないものの、十分に生活しやすく、住みよい地域と言えます。

住みよさの背景には、「子育て環境の良さ」が挙げられるでしょう。「子育てのしやすさが自慢」、「教育水準の高さが自慢」と考える人の割合は全国5位です。図書館や博物館の数といった文化的インフラの充実度も背景にあるのではないのでしょうか。

また、「所得環境の良さ」もあるでしょう。共働き率が高いこともあり、富山県の1世帯当たりの貯蓄残高は全国10位という上位にあります。ちなみに生活保護の世帯割合は全国最下位です。

さらに、「食の環境の良さ」も住みやすさに貢献しているのではないのでしょうか。「食べ物の美味しさが自慢」と考える人の割合は全国7位です。県外から富山を訪れる観光客にも認知されており、旅行先に選んだ理由として「食・特産品に興味があったから」を挙げた回答者の割合は全国9位です。行ってみたら「よい観光情報が入手できた」という回答者の割合もベスト10入りしており、食を含めた富山の魅力を県外の方にもっと伝えることで、現状、宿泊者数で全国39位に甘んじている観光需要のさらなる掘り起こしができるのではないかと期待しています。

生活面をみると、富山県人は、早寝・早起きという傾向がみられます。夜更かし・朝寝坊の

京都に比べて1時間近く生活サイクルがずれていることになります。

時間の使い方を見ると、労働時間は全国平均は上回っているものの、そんなに多い方ではありません（12位）。また、ゲームやホビーといった「インドア」よりも、スキー・スノボ、旅行・行楽といった「アウトドア」に時間を費やす方が多いようです。また、ボランティア好きな方が多い（7位）のも富山県の特徴です。「友人との交際にお金をかけたい」という回答率も高い（3位）こととあわせて考えると、人との繋がりを大事にされる方が多いということなのかもしれません。

総括してみると、富山県人は、働くのはそこそこに、人との付き合いを大事にし、博物館や図書館で学び、時間があれば旅行に行き自然を楽しむという非常に人間バランスの取れた生活を送っておられるということになります。惜しむらくは、家庭生活の充実度。「夫が子育てに参加している・いた」との回答率や、夫婦の平均会話時間は、全国で最下位クラスです。本日ご参加の男性は、深く反省し、今後、家族孝行に努められるようお勧めします。

最後に健康面について一言。飲酒量や食塩摂取量は男性を中心にやや多めですが、喫煙率は低く、検診も真面目に受診する傾向があるようです。この結果、平均余命をみると、男性は全国平均並みですが、女性は全国8位の長寿県です。男性は、もう少し頑張って塩分やお酒を控え目にすれば、さらに余命を伸ばすことも期待できるかもしれません。何かと暗い話題が多い昨今ですが、楽しい生活を送るためにも、生活習慣を整え、ご家族や仲間を大事にしていなければと思います。



文化スポーツ委員会

ラフカディオ・ハーン (小泉八雲) の共感力に触れる — 第9回 —

第9回文化スポーツ委員会（五十嵐博明委員長）が6月17日(水)、高志の国文学館で開催され委員ら33名が出席した。

今年度活動計画案を審議後、高志の国文学館企画展「ラフカディオ・ハーンの共感力」の鑑賞と企画展の解説（高志の国文学館主任学芸員綿引香織氏）を、参加者2班に分けて実施した。



五十嵐委員長

綿引氏は、ハーンが原稿の校正・推敲に厳しく、著作を通じ西洋社会における日本への正しい理解を促したこと、日本の生活と文化、引いては日本

人にどう向き合ったかなどを交えながら解説した。

企画展では、高志の国文学館の収蔵品に加え、普段見ることができな



い小泉八雲記念館、松江市中央図書館、富山大学附属図書館ヘルン文庫収蔵の著作・原稿や愛用品が多数展示され充実した内容だった。参加者は、ハーンが来日し日本人や日本の習慣・文化に触れる過程での鋭い観察眼や、異文化、日本人への温かい共感力に感銘、心を動かされた。

ラフカディオ・ハーン研究への熱い想い — 第10回 —

第10回文化スポーツ委員会が8月26日(水)、ホテルグランテラス富山にて委員30名に加え高岡市万葉歴史館館長坂本信幸氏が出席して開催された。

今回は当会中尾哲雄特別顧問が「ラフカディオ・ハーンと富山」と題して講演を行った。中尾特別顧問はヘルン文庫やラフカディオ・ハーンに触れるきっかけについて「学



講師 中尾特別顧問

生時代に先輩の吉田実氏（元富山県知事）から（ヘルン文庫の）蔵書を君もぜひ読んでみるべきだといわれたこと」とのエピソードを披露した。そして現在は、八雲会会長として会員と共に熱心に研究を続けていること、旧制富山高校

（現富山大学）が現在の富山市東岩瀬町で海運業を営んでいた馬場道久の妻、はる（1886～1971）の多額の寄附によって創立されたこと、八雲夫人からはるが蔵書を譲り受けヘルン文庫が設置されたこと、

ヘルン文庫跡地（現在の馬場記念公園前：富山市蓮町）での児童館建設への協力などを、富山の高等教育に



多大な尽力をした県人への想いを込めながら語った。

とりわけ、ハーンからみた日本人について「ハーンは日本人の特性を“没して見える個性”“天性の謙虚さ”“折り合いをつける折衷主義”とみていた。これは、特性を的確に捉える、恐るべき推論だった」と力説。また、ハーンは日本人を親切、礼節、自制心、献身、親孝行、信義に厚い、“少しばかりのもので満足する能力”を持った民族と評していた。10年ほど前、中尾特別顧問が台湾の経済団体の顧問を6年務めていた際、総会でお会いした李登輝総統（当時）がスピーチの中で、日本語で“日本を見習いなさい”と言ったあと、これと全く同じことを言われ驚いた」と、自身のエピソードを交えて語られた。

講演の最後には参加者に「“生きること”と“生活をする”は違うということ」を吉田さんから学んだ。生きるということは、自分の価値を世に問うていくこと、そのために絶えず自己の価値を高めていく努力をすることだ」と語りかけ講演会を締めくくった。



働き方改革委員会

コロナ時代の働き方とは — 第3回 —

第3回働き方改革委員会（遊道義則委員長）が6月26日（金）、ANAクラウンプラザホテル富山で開催され、委員31名が参加した。

冒頭、遊道委員長が「新型コロナウイルスによって世の中が大きく変化し、各職場でもいろいろな課題が発生したのではないか。各社の実情や課題を共有し、共に解決することが出来るよう話し合いたい」と挨拶した。



遊道委員長

会議では、はじめに今年度の活動方針及び活動計画について事務局より説明があった。

続いて、1年間の「委員会活動」と「委員自身の活動」を振り返った後、「望ましい未来のためのリーダーシップ」をテーマにグループ毎に意見交換が行われ、現在の職場の状況を客観的に把握したうえで、コロナ終息時に望むべき職場の状況や必要な取組みなど、with/after コ

ロナにおける働き方について活発なディスカッションがなされた。

委員からは、時間や場所に縛られない働き方の導入やリモートとリアルの併用が必要であるといった意見や、今後の取組みと



して、業務のオンライン化や営業活動へのデジタル導入、業務の作業標準化・可視化、コミュニケーションの円滑化などの取組みが必要であるといった意見が出された。

最後に、津嶋担当役員が「講演を聞くだけの委員会活動から一歩先へ進んだ取組みとして、どういう企業づくりをするのか、深く考えるきっかけとなったのではないか。答えは一つではない。今後もいい委員会活動にしていいただきたい」と挨拶して、会を終了した。

個を活かす働き方改革を考える — 第4回 —

第4回働き方改革委員会が8月6日（木）、富山第一ホテルで開催され、委員16名が参加した。

今回は、インテリジェンスフィールド合同会社 代表 福田祥司氏を講師に招き、「with コロナ時代の企業経営課題とは」と題してセミナー形式で講演いただいた。



講師 福田祥司氏

まず、昨今の環境変化について、コロナ禍で、なくてはならない仕事（エッセンシャルワーク）と不要不急の仕事の二極化が進んだ。改めて中計の再策定に取り組む企業も増えており、新たな環境の中での自社の存在意義や社会貢献等を見直すタイミングとなっているとした。

続いて、ワークシートを用いて、環境側面はどう対応するかについて、インパクト要因の洗い出しなどを行う実践に取り組んだ。

さらに、これまでの企業と人材の関係では、

個人の仕事が組織に埋没し、個の主体性を発揮する機会がなかった。これからは個人が自立して仕事することが重要であり、従来のメンバーシップ型の働き方のままでいいのか考えていくこと、そして、個人を活かし仕事の自立を実現するには、仕事や職場環境の分化、キャリアや承認の分離が必要であると説明した。

最後に、日本の企業理念・企業ミッションには社員や従業員の視点が欠けており、それが個の仕事の自立性を阻害している。



個人を尊重し分離することで、個人が独立した仕事を通して組織に貢献する形に変えていくことが必要であり、まさに変革のリーダーシップの発揮が求められているとして、講演を締めくくった。

「new normal」時代の地域活性化について

～ 第4回地域創生委員会 ～

第4回地域創生委員会（山野昌道委員長）が7月17日（金）、ホテルグランテラス富山で開催され委員43名が出席した。

まず、今年度活動計画案について審議した後「afterコロナ・withコロナを見据えた「new normal」や地域活性化について」をテーマに意見交換を行った。



山野委員長

この意見交換は、コロナ禍において地域活性化や委員各位の事業など今後の展望がわからないことが多いなか、委員の想いや取り組んでいること等について意見を述べてもらうことで提言策定を見据えた議論はもとより、委員各位の今後の事業運営や経営に少しでも参考となればとの想いで実施した。

委員からは「事業に大きな打撃を受けている」「先が見通しにくい」など不安・危機感を感じている意見が多く出された一方で、「収束することを信じて今から備えていきたい」「安心・安全なサービス提供に取り組んでいる」「提供するサービスの価値を向上させる取組が今後さらに重要」「バージョンアップする好機」など収束後を見据えて事業の発展・価値向上に向けた前向きな意見も多数出されるなど活発な意見交換となった。



ウィズコロナの人財創出を議論

— 第5回人財創出委員会 —

7月31日（金）第5回人財創出委員会（中澤宏委員長）がホテルグランテラス富山で開催され、24名の委員が出席した。

中澤委員長からの挨拶の後、2020年度活動計画について各担当副委員長より説明を行った。UIJターン促進事業の実施や、多様な働き方を志向する人材確保に向けた制度研究等について、ウィズコロナを踏まえた活動内容が提案された。また、新型コロナウイルスの影響により職を失う人々のセーフティネット構築に向け、新たな活動として人材セーフティネットの調査・研究について取り組むことが示された。



中澤委員長

続いて、提言「with/after コロナ時代における地方創生テレワークの実現」について吉田副委員長より概要を説明した。本提言は、首都圏に居住する人が勤務先を変えることなく全国各地の好きな場所に移住し、テレワークで業務を

継続する「地方創生テレワーク」を推進するもの。まず地方から声を上げ全国的なムーブメントにしていくことを見据え、富山の特色を打ち出した提言を作成すべく今後検討を進めていくこととなった。

その後、「with/after コロナにおける人財創出について」をテーマとし、グループに分かれての意見交換を実施。委員会の各活動内容への意見出しや提案を中心に忌憚のない活発な意見交換がなされた。最後に、各グループでの議論や出された意見について順に発表し、会場全体で議論を共有して意見交換を終了した。

コロナ時代における人財創出の課題や問題意識を共有し、本委員会の果たすべき役割があらためて明確となる委員会になった。



教育に関する提言骨子を検討

— 第7回教育問題委員会 —

第7回教育問題委員会（伊東潤一郎委員長）が8月18日(火)、オークスカナルパークホテル富山で開催され、委員17名が参加した。

冒頭、伊東委員長から「コロナ禍で学校は大変な状況になっており、教育界と連携した活動の実施が難しい。今年度は第11次委員会のまとめとして提言を出すこととしている。委員の皆さんの意見を伺いながらより良いものにしていきたい」と挨拶があった。



伊東委員長

続いて、今年度の活動計画を確認した後、提言の骨子案について説明が行われた。

提言の策定にあたって伊東委員長は、「教育現場でもコロナの発生から学ぶことは非常に多かった。コロナで明らかとなった問題も踏まえな

がら提言内容をまとめていきたい」と説明した。

委員からは、「ICTを活用した遠隔授業への対応を急ぐべき」「技術だけでなく、ICTを使ったコミュニケーション能力を高めていくことが大事」「コロナで不安を抱えている子どもたちも多く、改めて教師力の向上が求められている」「対面コミュニケーションの重要性という視点も盛り込むべき」「教師だけに押し付けるのではなく、子どもたちの未来のために経済界も一緒に取り組んでいくような提言とすべき」など、提言の方向性を定めていくうえで大いに参考となる活発な議論が交わされた。

最後に、大橋担当役員は、「コロナで改めて日本の教育の脆弱性が顕在化した。教育界と連携して我々に何ができるのか。提言書を作って終わりではなく、提言に基づき実践していくものにしなければならない」と強調し、委員会を締めくくった。

生きるために必要なこと、大切なこと

— 課外授業講師派遣 —

第1回 南砺市立平中学校

令和2年8月28日(金)、田村元宏氏(株)タムラ設計、代表取締役)が南砺市立平中学校において、全校生徒37名とその保護者33名を前に「生きるために必要なこと」をテーマに課外授業を行った。

田村代表は、はじめに、どんな環境に置かれても、自分の人生の主人公として生きることが大切であるとし、心から幸せと感ずること、希望を持って生きることが「人生の主人公になる」ということではないかと語りかけた。

次に、今、私たちは大きな変化の時代に生きているが、どんな環境でも生き抜く力を身につけることが大切であり、いつの時代も生き残ることができるのは、変化できる人であると説明。一方で、大きく環境が変わっても変えてはいけなものは、感謝と思いやりの考え方であり、ありがとうという感謝



親子で学ぶ講演会

の気持ちで今を生きることが幸せにつながる。また、「働く」とは「傍」を「楽にすること」であり、自分の周りの人を幸せにするために生きることが大切であると説いた。

そして、「ありがとう」の反対語は「あたりまえ」であり、身近にあるものが決して当たり前ではないということに気づくことによって、今を感謝して生きることができるとし、そのためには、相手に興味を持ち、相手の喜ぶことを考えることが大切であると、アンパンマンマーチの歌詞に触れながら説明した。

最後に、マザーテレサの言葉を紹介し、日々の言葉や行動が自分の性格となり、人生を決める運命となる。日々の生活の中で感謝と思いやりの気持ちを原点とし、どんな環境においても、しっかりと今を大切に生きてほしいと述べ、授業を締めくくった。



「感謝と思いやりが大切」と田村代表

猛暑に負けない“ 熱い応援 ”

～「同友会の日」 富山 GRN サンダーバーズ ホームゲーム観戦 ～

お盆休みの最終日である 8 月 16 日(日)、文化スポーツ委員会（五十嵐博明委員長）は地元プロスポーツを応援する「同友会の日」を開催し、富山市民球場（アルペンスタジアム）において富山 GRN サンダーバーズ対福井ワイルドラングラーズ戦を観戦した。

当日は気温35度を超える猛暑にも関わらず、麦野英順・塩井保彦両代表幹事、牧田和樹・桶屋泰三両副代表幹事をはじめ会員、会員所属企業の従業員、ご家族など約180名が参加した。

試合前のセレモニーで五十嵐委員長は「スポーツを通じ、富山の次代を担う若者たちが夢を持ってチャレンジすることの大切さを学んでくれることを願っている。熱戦に大きな拍手をもって応援しよう」と力強く挨拶を行った。

試合は、序盤富山 GRN サンダーバーズの先

発・牧野投手が 4 回 2 失点とゲームを作るピッチングであったが、リリーフ陣が追加点を許したことに加え、

好調な打線もあと 1 本が出ず残念ながら 0-6 で敗れ、ホームゲーム連勝とはならなかった。

しかしながら、選手の気迫あふれる熱いプレーに当会大応援団より、大きな拍手と声援が送られるなど、家族連れや職場仲間がそれぞれのスタイルで観戦を楽しんだ。



試合観戦



五十嵐委員長 挨拶



家族みんなで観戦



鉄の馬

荒井 進

(ジェイアールエム(株) 参与)

富山経済同友会会報2009年5月号№230に「わが青春の1枚」を寄稿したとき、当時の中尾代表幹事よりおはがきをいただいた。「人は見かけによらぬもの」と。その時の寄稿文のタイトルを「韋駄天時代」としたが、こんにちでもお会いすると「おお、韋駄天の…」と呼んでいた。走ることに目のなかった青春時代を改めて回顧させていただいたことに感謝したことを覚えている。寄稿文に自分の足で思うように走れなくなった。鉄の馬に乗り換えてこれからも走り続けたいと結んだ。あれから11年、今度はリレーエッセイ。(株)スカイインテック高瀬専務から、「リレーエッセイ次、頼むよ」と言われた。

高瀬専務のおっしゃる事はお聞きせねばなるまい、といつも飲み会の調子でお引き受けしたところが原稿づくりで苦しめられた。エッセイとは程遠い、的外れな、身辺雑記になったことをまずもってお許しいただきたい。

1959年(株)日本抵抗器製作所に入社以来、グループ会社を含めて60年間、微衷を尽くし、マラソンランナーの如く走ってきた。長い間、対立が激しかった労使紛争も1991年解決。自力再生、知働共同体の構築を経て復配の目途が立った。心のゆとりが生まれ、若いころにバイクを乗り回した体験が蘇ってきた。排気量で言えば400cc (ホンダ製)、750cc (ホンダ製)、1200cc (BMW製) を乗り継ぎ、そして現在は1450cc (ハーレーダビッドソン製) である。1989年製のサイドカーであるが、5年程前にトライク(3輪車タイプ) に代わり、サイドカーの生産は中止になった。このトライクというバイクは、普通免許、ヘルメット不要で乗れるため、売れ行きは好調のようである。

さて、愛車ハーレーは、トリップメーターが一回りし、二回り目の18,000kmにかかっている。外気に晒されるバイクはエンジンの振動と重低音の排気音を身体で受けとめる乗り物である。



全身に風を受けたスピード感、爽快さ、解放感は閉じ込められた独房のような乗用車ではとても味わえない。五感を研ぎ澄まさないで命取りになる。肉体と精神のバランスの鍛錬になり老化を防止する。東北大学のある先生が6、7年前「バイクの日」に因んで読売新聞に「脳の老化現象予防に効果がある」という記事を見て勇気づけられた。

バイク共通の話に花が咲く若者たちとの触れあい、本音で話し合いができるおじさんたちとの出会い。人生を豊かにしてくれることに感謝しながら、私は故中曽根康弘氏が語った三つの「縁」を大切にしている。それは結縁・尊縁・随縁と言ひ、縁を結び、その縁を尊び、その縁に従う。大勲位は国際間、国のトップたちと会う場合、これを基本に外交を進めてきた。そしてそれが相互信頼につながり、難題を解決するに至った。

さあ、そろそろ帰らなければ…。糸の切れた凧のような、はぐれじいじを老妻が待っている。エンジン快調、茜に染まる西空に向かい STAND・ARONE をくちずさみながら「…凧として旅立つ 一朵の雲を目指し…♪♪♪」。

日本抵抗器グループ、富山経済同友会、他、全ての方々にご縁を頂き、今を生きることに心から感謝しながらペンを置く。ありがとうございました。

(次号は(株)コージン会長の小柴順子 様 です。)

活動報告

5月1日～8月31日

○幹事会・定例会等

開催日時・場所	内 容	出席者
7月8日(水) 16:30～19:00 ホテルグランテラス富山	7月幹事会・会員定例会（地域創生委員会主管） 講演会「スマートシティおよびデータサイエンスについて」 （1）地域創生委員会 県外先進事例視察結果報告 ～スマートシティ会津若松～ 発表者：地域創生委員会副委員長 吉田 守一 氏 （2）講演：「富山市版スマートシティの取組み」 講師：富山市長 森 雅志 氏 （3）富山市センサーネットワーク活用実証実験事例紹介 発表者：㈱アイベック 代表取締役 東出 悦子 氏 （4）講演「地域課題解決を通じた、データサイエンティストの育成—富山大学データサイエンス寄附講座の設立—」 講師：富山大学長 齋藤 滋 氏	約230名

○委員会

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
5月12日(火) 14:00～15:30 ホテルグランテラス富山	第1回企画総務委員会	・今年度活動方針と活動計画について ・今年度各委員会活動計画について ・新型コロナウイルスの対応策について	11名
5月22日(金) 11:00～13:00 事務局会議室	教育問題委員会 第7回正副委員長会議	・今年度活動計画について ・教育に関する提言案について ・with/after コロナにおける委員会活動や教育の在り方について	9名
6月11日(木) 14:00～15:00 Web 会議	第1回60周年記念事業 チームミーティング	・60周年記念式典と記念誌の内容検討	4名
6月17日(水) 16:00～19:10 高志の国文学館	第9回文化スポーツ 委員会	・2020年度活動計画について ・高志の国文学館 企画展鑑賞 「ラフカディオ・ハーンの共感力 —発見 探求、そして発信へ—」	33名
6月19日(金) 11:30～13:00 事務局会議室	企業経営委員会 第2回正副委員長会議	・第1回委員会の開催について ・経営道場・ごきげんよう職場訪問他	8名
6月24日(水) 11:30～13:00 事務局会議室	人財創出委員会 第8回正副委員長会議	・今年度活動内容・スケジュール ・第5回委員会について 他	8名
6月26日(金) 16:00～18:00 ANA クラウンプラザ ホテル富山	第3回働き方改革 委員会	・今年度活動方針及び活動計画について ・with/after コロナにおける働き方改革について意見交換	31名
7月1日(水) 15:00～16:00 Web 会議	地域創生委員会 第5回正副委員長会議	・第4回委員会の開催について ・委員会における after コロナに関する検討について	8名
7月7日(火) 14:00～14:45 Web 会議	第2回60周年記念事業 チームミーティング	・60周年記念式典と記念誌の内容検討	3名
7月17日(金) 17:00～20:00 ホテルグランテラス富山	第4回地域創生委員会	・2020年度活動計画について ・after コロナ・with コロナを見据えた「new normal」や地域活性化について意見交換	43名
7月20日(月) 16:00～19:00 富山第一ホテル	第2回企画総務委員会	SDGs 勉強会 ・内容：SDGs 未来都市計画の概要や 産学への期待について ・講師：富山県総合政策局長 柿沢 昌宏 氏	12名

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
7月28日(火) 11:00～13:00 事務局会議室	教育問題委員会 第8回正副委員長会議	・「教育と企業人との交流」について ・「海外教育事情視察」について ・教育に関する提言案について	8名
7月29日(水) 16:30～20:10 富山電気ビルディング	第1回企業経営委員会	・2020年度活動計画について ・講演会（拡大委員会） 講師：日本銀行金沢支店長 武田 吉孝 氏 演題：「最近の金融経済情勢」	128名
7月31日(金) 17:30～20:00 ホテルグランテラス富山	第5回人財創出委員会	・今年度活動計画について ・with/after コロナにおける人財創出について（意見交換）	24名
8月4日(火) 14:00～15:30 オークスカナルパーク ホテル富山	第3回企画総務委員会	・SDGsの課題抽出と目標設定など ・60周年式典内容検討と年史の作成 ・新会員歓迎オリエンテーション・懇親会	11名
8月5日(水) 11:30～13:00 事務局会議室	文化スポーツ委員会	・今後の活動内容・スケジュールについて ・県外視察について	7名
8月6日(木) 16:00～20:00 富山第一ホテル	第4回働き方改革委員会	セミナー 講師：インテリジェンスフィールド 合同会社 代表 福田 祥司 氏 演題：「with コロナ時代の企業経営課題とは」	16名
8月18日(火) 17:00～18:30 オークスカナルパーク ホテル富山	第7回教育問題委員会	・今年度活動計画について ・教育に関する提言書について	17名
8月26日(水) 17:00～18:30 ホテルグランテラス富山	第10回文化スポーツ委員会	講演会 講師：当会特別顧問 中尾 哲雄 氏 演題：「ラフカディオ・ハーンと富山」	31名

○課外授業講師派遣

開催日	学 校	対 象	講師・演題
8月28日(金)	南砺市立平中学校	全学年37名 保護者	田村 元宏 氏 「生きるために必要なこと」

○その他の会合

開催日	内 容	場 所	出席者
7月10日(金)	令和2年度富山県県産材利用促進会議	富山県民会館	高林常任幹事
7月20日(月)	第1回あいの風とやま鉄道経営計画検討 ワーキンググループ	富山県民会館	有藤事務局長
8月16日(日)	「同友会の日」富山 GRN サンダーバース戦	富山市民球場 (アルペンスタジアム)	約180名
8月26日(水)	令和2年度 第1回富山県幼児教育推進連絡 協議会	富山県民会館	島田教育問題 副委員長

○新型コロナウイルス感染症対策のため中止の行事

開催日	内 容	場 所
5月30日(土)	第79回あけぼの会	呉羽カントリークラブ
6月11日(木)	第8回5経済同友会教育担当委員会交流会 (新潟経済同友会主管)	ホテルオークラ新潟
8月24日(月)	新会員歓迎オリエンテーション・懇親会	A N A クラウンプラザ ホテル富山

会 員 の 入 退 会

(7月幹事会)

1. 最近思うこと

(社業についての抱負や最近の政治・経済・社会情勢等についての考えなど)

2. 生活信条(座右の銘等)

3. 趣味

入 会



いけ だ とし あき
池 田 俊 彰

北陸電気工事(株)
顧問

(紹介者：矢野 茂氏)



みず の こう いち
水 野 弘 一

北陸電力送配電(株)
取締役社長

(紹介者：久和 進氏)

1. 今までの経験を持って「アクションプラン2023」の達成に向け、事業活動の補佐に当たる。そして「会社よし、社員よし、社会よし」の実現に努力する。
2. 「日日是好日」：あるがままを良しとして受け入れる。
3. 温泉と映画鑑賞

1. ・2020年4月1日に発足したばかりの会社であり、早く地域社会に認知されるべく、確実に事業を進めていきたい。
・新型コロナの影響や米中・日韓問題等で地域経済の落込みが心配。
・防疫と経済の両立等が急務と考えている。
2. 世の中に失敗というものはない。チャレンジしているうちは失敗はない。あきらめた時が失敗である。
3. 古寺・古城巡り、美術鑑賞、読書、ウォーキング



ひら た わたる
平 田 互

北陸電力(株)
取締役常務執行役員

(紹介者：久和 進氏)

1. 地震、台風、水害などの災害の激甚化、新型コロナウイルス感染症による世界的なパンデミックなどのリスクの多様化、大規模化に対応出来るリスク耐性の強化が肝要。
2. 明るく楽しく元気よく
3. 読書、音楽(ロック)鑑賞、名画座巡り

交 代



おか べ りゅう いち
岡 部 竜 一

(株)岡部
代表取締役
(前：稲積欣治氏)

1. 社会の変化は激しいですが、この変化をチャンスと捉え、常に挑戦し続ける岡部魂で、社員と共に新たな時代を切り開き、地域創生社会に必要とされ続ける企業を築いてまいります。
2. 共存共栄、感謝
3. 料理、ダイエット、ドライブ、サイクリング



おし た のり ひろ
押 田 規 宏

(株)グリーンリゾート
常願寺ゴルフ
専務取締役
(前：押田 健氏)

1. ご来店くださるお客さん全てに快適に利用してもらえよう、常にお客さん目線で施設を見るように心がけています。新型コロナウイルスにより先が見えない中、やるべきこと、やらないといけないことをしっかり見極め従業員とともに乗り切りたいと思います。
2. 人生苦しい時が上り坂
3. ゴルフ



かじ たに ひで はる
梶 谷 英 治

ほくほくTT証券(株)
取締役社長
(前：中野 隆氏)

1. ほくほくFGの一員として顧客の資産形成ニーズに応え、もっと地域を豊かにすることを目標に頑張っていきます。コロナはピンチではなくチャンスと捉えましょう。
2. 天命に安んじて人事を尽くす(清沢満之)
3. ゴルフ、散歩、読書



く ぼ たい いち
久 保 泰 一

堤地所(株)
代表取締役
(前：志摩洋一氏)

1. アフターコロナの新しい生活様式を先取りしたビジネスモデルを創造できるように、不動産の分野で、地域のお客さまのニーズに幅広く応えていきたい。
2. 「為せば成る」厳しい中に自らの成長を求めていきたい。
3. 読書、ガーデニング



す がわ もと のぶ
須 河 元 信

(一財)北陸電気保安協会
理事長
(前：長谷川俊行氏)

1. アフターコロナで予想されるニューノーマルに対し、スピード感を持って如何に構造変革に取り組んでいくか、絶好のチャンスと考えます。
2. 「熱意」「誠意」「創意」の三つの意を絶えず失わないように心がけています。
3. 水泳、ウォーキング、ゴルフ



すず き のぶ ひろ
鈴 木 庸 寛

(株)商工組合中央金庫
富山支店長兼高岡支店長
(前：斉藤篤人氏)

1. コロナ禍を契機にいろいろと見直す動きが加速化すると思います。こうした動きに対してお客様1社1社をよく見て、中長期的な視点での確かなソリューションを提供していきたい。
2. 為せば成る為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり
3. スポーツ観戦



ふるや り え
古 屋 里 恵
大和証券(株)
富山支店長
(前：矢代成男氏)

1. コロナ禍でテレワークやオンライン面談等、働き方が大きく変化しました。従来からの良い文化を残しつつ、スピード感を持ち、柔軟に対応していく必要性を感じています。
2. 一期一会
3. ヨガ



やま ぎし とおる
山 岸 達
(株)ドコモCS北陸
富山支店長
(前：浪方竹葉氏)

1. コロナは冷戦終結やインターネット普及に匹敵する変化を世界にもたらす可能性があるもので、世界のトレンドを常に注視していきたい。
2. 無知の知
3. 海外ドラマ、ワイン、旅行

退 会

- 赤 丸 準 一 (株)ケーブルテレビ富山 取締役社長
- 荒 井 里 江 (株)穂明コーポレーション 代表取締役
- 梶 博 司 (有)美人家 代表取締役
- 堀 田 信 一 日本海ツーリスト(株) 取締役社長
- 堀 田 正 之 北電産業(株) 取締役社長
- 矢 野 千 賀 子 (株)矢野 代表取締役

(令和2年7月8日現在 会員数429名)

哀 悼



当会幹事の花田修一氏（いなほ化工(株)取締役会長）は令和2年8月24日ご逝去されました。享年66歳。
心からご冥福をお祈り申し上げます。

所属企業変更

尾 島 志 朗 氏

北陸電力(株)取締役副社長

→ (株)ケーブルテレビ富山 取締役社長

高 林 幸 裕 氏

北陸電力(株)常任顧問

→ 北電産業(株) 取締役社長

■新型コロナウイルスに関するアンケート

9割の会員が今後の事業収益に「マイナス」と回答

企業経営委員会（伊勢徹委員長）は今年5月に「新型コロナウイルスに関するアンケート」を実施し、219社（回答率53.2%）から回答が寄せられた。

主 な 項 目

◆今後の収益への影響は？ かなりマイナス 33% マイナス 32% ややマイナス 25% 影響は中立 9%	◆事業正常化後も継続予定の対応は？ ネット会議の活用 26% 時差出勤・テレワーク拡大 21% ◆テレワーク継続による、感染予防対策以外のメリットは？ 非常時の事業継続性の確保 65% 移動コストの削減 61% 業務プロセスの革新 51% 従業員のワークライフバランス、満足度の向上 43%
◆事業の正常化を見込む時期は？ 2021年1月～6月 28% 2020年10月～12月 18% わからない・なんともいえない 25%	

■第21回 富山景気定点観測アンケート

5割を超える会員が景気の現状について「後退している」と回答

企業経営委員会は、今年7月に「第21回富山景気定点観測アンケート」を実施した。2020年後半の景気見通しや各社の業績予想、テレワークの導入について186社（回答率45.4%）から回答が寄せられた。

主 な 項 目

◆現在の富山の景気動向は？ 後退している 53% 緩やかに後退している 30% 横ばい状態が続いている 16%	◆富山の2020年後半（7～12月）の景気の見通しは？ 後退していく 32% 緩やかに後退していく 27% 横ばい状態が続いていく 24%
◆2020年度設備投資は前年比でどうなる見通しか？ 減額 43%、前年度並 39%、増額 18%	◆現状の雇用人員をどのように感じているか？ 不足している 51% 適正である 45% 過剰である 4%
◆現在、テレワークを導入しているか？ 導入している 42% 新型コロナ対策として導入したが、現在は実施していない 18% 導入していない 40%	◆使用しているweb会議用ツールは？ Zoom 60% Microsoft Teams 30% Skype 20%

今後の予定

開催日	対 象	行 事	場 所
9月24日(木) 16:30～16:50	幹事以上	9月幹事会	ホテルニューオータニ高岡
9月24日(木) 17:00～20:10	全会員	9月会員定例会(働き方改革委員会主管) 講師:(株)ワークライフバランス 代表取締役社長 小室 淑恵 氏 演題「経営戦略としての働き方改革 ～生産性で差をつけ、コロナ時代 を勝ち抜くには～」 同上懇親会	ホテルニューオータニ高岡
10月18日(日) 17:00～	全会員	同友会の日 (カターレ富山戦)	富山県総合運動公園 陸上競技場
11月8日(日)	幹事以上	11月幹事会	オークスカナルパーク ホテル富山
11月8日(日)	全会員	11月会員定例会(文化スポーツ委員会主管) トークセッション 〈出演者〉 檀 ふみ 氏 高岡市万葉歴史館 館長 坂本 信幸 氏 当会特別顧問 中尾 哲雄 氏	オークスカナルパーク ホテル富山
12月8日(火)	全会員	年末懇親会	A N Aクラウンプラザ ホテル富山
1月4日(月) 16:00～17:30	幹事以上	令和3年経済団体新春互礼会	A N Aクラウンプラザ ホテル富山
1月14日(木) 11:30～13:00	幹事以上	新年幹事会・富山県知事との昼食会	富山電気ビルディング
4月8日(木) ～9日(金)	全会員	第34回全国経済同友会セミナー	熊本市内 (熊本経済同友会主管)

※新型コロナウイルス感染症状況により、変更となる場合がございますのでご了承願います。

【中止・延期の行事】

開催日	対 象	行 事	場 所
10月30日(金)	正副代表幹事 担当委員長	経済同友会中央日本地区会議	静岡県三島市 (静岡経済同友会主管)
11月26日(木) ～27日(金)	全会員	第13回日本海沿岸地域経済同友会 代表幹事サミット	ホテルニューオータニ鳥取 (鳥取県経済同友会主管)

※新型コロナウイルス感染症対策の為。

〔表紙写真〕

7月会員定例会

今年度初の会員定例会。テーマである「スマートシティとデータサイエンス」に対する関心は非常に高く、会員はじめ所属企業の実務責任者など約230名が参加した。

今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に十分配慮して、定員が出席者数の2倍以上と密にならない会場設営を行い、大型スクリーンを3面設置するなど大規模なしつらえで開催した。

参加者は森富山市長、齋藤富山大学長ら4名の講師による講演を熱心に聞き入るとともに、多くの質疑応答や講演後の意見交換など、活気と熱気あふれる定例会となった。

発 行 所

富山経済同友会

富山市牛島新町5番5号 インテックビル4階

電 話 (076) 444-0660

F A X (076) 444-0661

e-mail: doyukai@po.hitwave.or.jp

http://www.doyukai.org/

わが青春の1枚



1988年12月函館にて 三田会 OB の先輩夫妻方と



1987年9月函館 友人のレストランの庭にて



は一るばる来たぜ函館 !!

富山電気ビルディング株式会社 取締役社長

山田 岩男

1986年4月、今から30数年前なので青春というには遅すぎるが、多少大目に見ていただきたい。20年間の銀行員生活で8ヶ所経験したが、最も思い出深く、強く印象に残っているのが函館支店。3年間勤務した。

赴任した当初は、粉塵混じりの空っ風が強く、寒さが身に染みた。家内も慣れない社宅で風邪をひくし、近所の市場では腐った卵を買わされたと泣いて来る始末。さんざんなスタートだった。(後で判ったが、卵は凍っていただけだった)前任は新橋支店、社宅も中目黒にあり、東京のど真ん中での生活で、そのギャップはあまりにも大きかった。夜になると青函連絡船の霧笛がうら寂しく響き、とうとうこんな所に来てしまったと北島三郎の歌を思い出していた。

この頃は、日本全体がバブル経済で大いに沸き、函館も例外ではなかった。しかし一方で、青函トンネル開通により青函連絡船が廃止され、北洋サケマス船団の出航も無くなり、水産都市函館にとって大きな変わり目の時代であった。

函館での生活は、第一印象が最悪であったにもかかわらず、たまたまスキー場で知り合ったフレンチのシェフにより大きく変わることになる。彼とは同じ昭和26年2月生まれ。それ以来、住宅街の洒落た彼のレストランを核に友人の輪が広がり、プライベートでは充実した時間を過ごすことができた。特に同じ転勤族の三田会(慶応のOB会)の先輩方とはシェフを交えて家族ぐるみで楽しんだ。バーベキュー、釣り、パーティー等。その付き合いは30年以上過ぎた今でも続いている。また別の意味で、私にとって貴重だったことがある。それはシェフとの付き合いで得た職人としての料理人の考え方、料理に関する様々な知識・雑学である。その後携わることとなった食堂の経営において、現場の料理人を理解し、経営の立て直しを行うのに大いに役立った。

たまたま出会った人との縁に改めて感謝するとともに、これからも“一期一会”の気持ちでどんな縁も大切にしていきたいと思っている。